ANNUAL REPORT 13

(2013.4 ～ 2014.3)

Non Profit Organization
特定非営利活動法人 しゃらく

ANNUAL REPORT について

本報告書は事業報告書と事業計画書の 2 部構成としています。対象期間は、2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日（2013 年度）の活動を対象としています。

特定非営利活動法人しゃらく 概要

■名称　特定非営利活動法人　しゃらく

■設立年月日　2006 年 1 月 24 日

■所在地　神戸市須磨区須磨浦通 4-4-6
須磨浦ビル 204 号室

■連絡先　電話　078-735-0163
FAX　078-735-0164

■ホームページ　http://www.123kobe.com

■理事

代表理事	小倉譲
副代表理事	西川伸一（医学博士）
常勤理事	須貝静
常勤理事	小嶋新
非常勤理事	坂本泰樹（医学博士）

■スタッフ数　常勤スタッフ 7 名　パート 1 名
計 8 名

■予算　平成 25 年度　37,077,000 円

■正味財産　15,179,909 円
（2014 年 3 月 31 日時点）

■事業目的（定款 3 条）

この法人は、地域住民や主に高齢者・障がい者・疾病患者等に対して、安心や信頼と生き甲斐を持てる地域づくりの推進、ゆとりあるライフスタイルを提案・支援する事業を行うことにより、心のバリアフリーの創造に寄与することを目的とする。

■事業内容（定款 5 条）

(1) 地域活性化及び地域観光振興事業
(2) 外出や旅を通した生きがいづくり支援事業
（旅行業法に基づく旅行業）
(3) 一般乗用旅客自動車運送事業（福祉輸送事業）
(4) IT・DTP による情報提供サポート事業
(5) 相談業務・人材育成事業
(6) 職業紹介事業
(7) 生涯学習講座と各種イベント企画開催事業
(8) 生きがい支援基金事業

第 9 期通常総会

□開催場所

センタープラザ西館6階　1号室
（神戸市中央区三宮町2丁目11番1−604号
センタープラザ西館6階

□日　　時

2014 年 5 月 25 日（日）14：45 ～ 16：45

CONTENTS

事業報告　2013 年度

【1】ご挨拶
【2】2013 年度　事業報告
　（1）しゃらく旅倶楽部
　（2）「まさゆめ」Project
　（3）インキュベート事業
【3】メディア掲載情報
【4】決算書
　（1）活動計算書
　（2）貸借対照表
　（3）財産目録
　（4）事業別損益
　（5）注記
　（6）売上推移
【5】2013 年度　総括

事業計画　2014 年度

【6】2014 年度　事業計画
　（1）2014 年度事業方針
　（2）しゃらく旅倶楽部
　（3）「まさゆめ」Project
　（4）インキュベート事業
　（5）活動予算書
　（6）事業別予算

ご挨拶

正会員の皆様

拝啓　薫風の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2006 年 1 月、特定非営利活動法人しゃらくが設立されて、丸 8 年の月日が経ちました。設立当初を思い起こすと、現在の NPO 法人しゃらくの姿は理想の先にある夢のような状態です。経営資源として「人・モノ・金・情報」の 4 要素が必要だと言われています。当時は、「人」以外に何もなく、法人を維持するどころか私たち創業メンバーの生活を維持することすら難しい状況でした。365 日不眠不休で事業を育て、そしてアルバイトをする過酷な 2 年間。そんな私たちを支えてくれたのは、夢と私たちが目指す理想の姿を常に意識したこと、加えてハングリー精神であったと思います。その結果、紆余曲折はあったにしても事業は軌道にのり「人・モノ・金・情報」と言う経営資源を手に入れ、私たち自身も生活できるようになりました。私たちが目指していた姿が実現したのだと思います。

現在では、常勤で働くスタッフの多くは結婚し、子どもがいる家庭もあります。私ども NPO 法人しゃらくは、旅行というツールを使って社会をよくしていく大義名分以外にも、一緒に働く仲間の生活を守ることも大きな責務になっております。そういった意味でも、私たちは成長し続けなくてはなりません。それは、無意味に事業規模を大きくすることでも、スタッフ数を増やしていくことでもないと思っています。大切なのは、経営理念を守りながら、仲間のライフスタイルにあった職場環境と経営環境を構築することだと思います。

そのためには、私たち自身が変わらないといけないと思っています。それは、創業当時に私たち自身が抱いた夢や理想の姿が私たちを今の現状に導いてくれたように、次のステージに進むためには、しゃらく全スタッフが新たな夢や理想の姿を共有することが、何よりも大切であると考えております。

10 年目という一つの節目を迎えるに辺り、新たな 10 年を見据えて新たな夢や理想の姿に向かっていくための準備を今後進めて行ければと考えております。そのためには、理事・監事・正会員の皆様のお力添えが必要です。今後とも、NPO 法人しゃらくの成長にあたたかいご支援を頂きますよう、よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人しゃらく
代表理事　小倉譲

事業報告

認知症のお客様と奈良の姪御様を訪問 1泊2日の旅

舞子の施設に入所されている、認知症のお客様と1泊で奈良へ行って来ました。奈良というのは、よく面会に来られるお客様の姪御様のお住まいです。認知症を患われる前はよくお友達と釜飯を食べに訪れられていたとのことですが、施設に入所されてからは一度も奈良へ行かれたことがなく、今回、姪御様のご意向で奈良旅行が実現しました。

当日は私と二人きりで奈良まで向かうため、安心してご一緒いただけるよう、出発当日まで何度も施設へ訪問させていただきました。出発当日「どこ行くの?」とやはり、不安なご様子でしたが、施設のスタッフの方が用意してくださった姪御様ご夫婦の写真立てをしっかり握られ、スムーズに出発できました。行きは混乱されないよう、進路が見え、私からも状態が把握できる助手席に座っていただきました。

途中混乱されることなく、無事、奈良の姪御様のご自宅到着。姪御様ご夫婦が笑顔で出迎えてくださいました。ご自宅では、昔の思い出がつまったアルバムをみんなで鑑賞。思い出すことがなかなか難しいこともありましたが、しばらく昔話を楽しまれました。昼食は、神戸から何度も食べに訪れられていたという「志津香」で釜飯を頂きました。車いすで玄関まで行き、入口から歩行。階段は私と姪御様の旦那様で両側から支える形で上っていただきました。釜飯を半分程、おかずをたくさん召し上がられました。

夕食後、非常にお疲れのようだったので、お部屋で入浴していただくことにしました。浴槽の横に座れるスペースがあったので、まずそこに腰を下ろし、浴槽内にお湯をため、足浴の状態にしてお体を洗いました。たくさんの汗をかいておられたので、すっきりされたようでした。就寝準備として、ベッド周囲に柵を装着しました。心配していた夜間は、姪御様お付添のもと、3回程度目を開けられたものの、立ち上がられたり、動かれることはなかったそうです。

朝、ご挨拶に伺うと「よく眠れたよ」とお返事いただきました。前日のハードスケジュールにも関わらず、発熱なく、血圧も良好で普段と変わらないご様子でした。朝食後は姪御様の旦那様の会社へ。先に出勤されていた旦那様に会うなり、にこ~っと表情が緩みました。さよならのあいさつをし、姪御様が追加してくださった写真立てを終始握って、神戸へ向かいました。帰りの車内ではとても落ち着いているご様子で、景色を眺めておられました。

認知症のお客様ということでどこまで昔を懐かしんでいただけるか不安はありましたが、場面場面でとても素敵な表情を見せてくださり、心から楽しんでおられるご様子でした。帰り際、「どこへいってきたの?」という言葉に、少し切ない気持ちにはなりましたが、またご一緒にしたいという気持ちにさせていただきました。本当にありがとうございました。

この指とまれツアー

5 月は芝桜がきれいな三田の永沢寺に行ってきました。永沢寺と言えば花菖蒲が有名ですが、芝桜も見応え十分。絨毯のように敷き詰められたピンクや白のお花がとってもきれいでした。新しいメンバーも加わりましたが、今までと同じように和気あいあいとした雰囲気でみなさんとても楽しまれていました。

8 月は日本最大級の植物館、咲くやこの花館に行きました。合計 3 回、暑い日ばかりでしたが、それでも出かけたい！と多数の方がご参加。皆さんお花や植物が大好きで、気候の違う世界中の珍しい植物を多く観れて喜ばれていました。初参加された方も「ゆっくりしたペースだし、ヘルパーや看護師も一緒だからとってもいいわ～」と嬉しい一言。毎月少しずつ参加者が増えて嬉しいです。

11 月は紅葉で有名な長岡京光明寺と長岡天満宮へ行ってきました。4 回のうち 1 回は残念ながら雨天中止となってしまいましたが、他 3 回は天気にも恵まれ、長岡名物のタケノコ料理とすばらしい紅葉を満喫できました。今回は段差も少しあったり、坂道を上ったりしましたがみなさん疲れを見せることなく元気いっぱいでした。

■2013 年度行先一覧と開催実績

	行先	催行回数	参加人数		行先	催行回数	参加人数
4 月	あわじ花さじき	2 回	9 名	10 月	加西コスモス・丹波黒豆収穫	3 回	13 名
5 月	永沢寺芝桜	2 回	8 名	11 月	長岡京光明寺	3 回	18 名
6 月	永沢寺花菖蒲	2 回	9 名	12 月	有馬温泉街歩き	1 回	4 名
7 月	県立フラワーセンター	2 回	9 名	1 月	立川水仙郷	2 回	8 名
8 月	鶴見緑地公園	3 回	13 名	2 月	海遊館	1 回	4 名
9 月	神戸花鳥園	2 回	10 名	3 月	室津街歩き	2 回	8 名
					合計	25 回	113 名

事業報告　～ハイライト～　　古民家再生バスツアー

「何より続いていくために」

「なぜこのツアーに申し込んだのですか？」

返ってくる答えの大半は、「自分の目で被災地を見てみたかった」「関西発のツアーが他になかった」。裏を返せば、多くの参加者はこのツアーを単に「被災地を目撃するための方法」ととらえ、その機会こそを購入してくれているにすぎないという読み解き方もできる。今や関西からボランティアバスはほとんど出ていない。比較検討の対象となる選択肢は与えられていないのだ。

そうしてとにかく被災地へ入る切符を手にしてやって来た参加者の感覚には、やはり型どおりの〝ボランティア〟観が強く根付いている。

「ボランティアとは、ほこりにまみれ、汗水流して作業に打ち込むことだ」

震災発生から３年。復旧作業は大きく進み、被災地のニーズも大きく変容している。古民家ツアーの添乗は、毎回、この「ボランティア＝作業」という信仰を打ち崩す手続きから始まる。

「観光資源」という言葉を、「他地域から人を呼ぶためのネタ」という意味にだけ限定して使うならば、ボランティア作業ほど爆発的な集客力を持った観光資源も他にない。ただし、「観光客の飽き」が最大の脅威となる通常の観光資源にくらべて、ボランティア作業はよりずっと速いスピードで消耗していく。震災発生以降、遠路はるばる東北に乗り込んだボランティアたちは、目覚ましい活躍を見せた。作業は進み、その量はみるみる減っていった。

そしてその当然の結果として、バスは出なくなり、人は来なくなった。

さてこうなってみると、これでいいわけがない。

世間に数少なくなった（主に首都圏発の）他社ツアーを見ると、その行程表には農作業や漁業作業のお手伝いといった文字が増えてきている。観光客の受け入れ態勢が戻りつつある中、「支援の一環として東北へ観光に出かけよう」という呼び声のツアーも多く販売されるようになった。これもひとつの答えだろう。ただ、農漁業作業という日本中の至るところで行われている活動のお手伝いをするだけで、また、お定まりの観光コースをなぞるだけで、「必ずまた来たい」という強い思いを顧客に持ってもらえるのか、企画の持続力という点に危うさは残る。

昨年の催行では、「私の方が被災地から元気をもらった」という声が続出した。旅行商品であるこのツアーに、代金を支払って参加する顧客が最大の利益を得なくてはならないことは言うまでもない。が、被災地ツアーの特殊性を思うとき、同じくらいの利益が現地に落ちなければ、これは「被災地ツアー」として成立しない。

気の遠くなるほど長く曖昧な復興への道のり。旅行業者は長く愛され、売れ続ける〝優良ツアー〟を造成すること。これに乗る参加者は、念願の現地で自ら集めた確かな材料を元に、それぞれが正しいと信じる支援の道を歩み始めること。そして被災地は、細くても長く、ツアーに乗ってやって来る訪問者から力を引き出し続けること。三者の成す輪の取っ掛かりは、「被災地なのに安心して楽しめる」４日間を創るところにこそある。

事業報告　しゃらく旅倶楽部

しゃらく旅倶楽部事業

平成25年度の全体実績としては、受注件数184件（前年比60.0%増）、利用者数592人（前年比34.2%増）ともに大幅に増加、売上金額としては過去最高となる21,442,429円（前年比約60%増）を達成した。

●受注型企画旅行の売上金額は前年比21.1%アップ。新規顧客の大口案件が増えたことがそのまま数字に表れた格好である。しかしながら重度で寝たきりのお客様が多いことから再度の利用は期待しづらく、引き続き新規顧客の獲得が課題である。

●手配旅行の売上金額は前年に比べて64.1%と大幅にアップした。しかしながらその増加分のほとんどが長期的な利用が期待できない、ある特定のお客様からの受注であったため実質的には前年とほぼ横並びの数字と言える。新規顧客も増え、受注件数も増加しているにも関わらず、売上、収益ともに実績が上がっていない現状を改善する必要がある。

●募集型企画旅行では、古民家再生ツアーが売上金額52.3%増と、事業部全体の実績アップの牽引役となった。SHINGANツアーも含めた全9回のほとんどが満席となり、売上金額では介護付き旅行全体とほぼ変わらない規模にまで成長した。ただし今後被災地への関心が低くなっていくことも予想され、中長期的にはコンテンツや集客方法等においても抜本的な見直しが必要である。

この指とまれツアー

・低価格の団体日帰り旅行の実施

前年度実施したモニターツアー企画『旅リハ』の実績をもとに、以下の内容で少人数の日帰り団体旅行を実施した。

●対象：自力歩行可能ではあるが外出しにくい神戸市内在住の高齢者

●頻度：　1～2回/月　●参加者数：4～7名/1回

●行先：兵庫県・大阪府・京都府等関西圏内の花で有名な観光地（片道30分～1時間30分）

●価格：4,980円＋高速代・駐車場代等諸経費/1回

●目的：新規顧客の開拓・囲い込み

●目標：顧客リスト50名分

結果、年間合計で25回実施、延べ113名の参加で売上金額は630,610円となった。顧客リストは52名分を獲得、なんとか目標は達成できた。

反省点としては以下のものが挙げられる。

■今年度は最も暑い8月9月、最も寒い1月2月にも催行したが、①外出の意欲が乏しい②体力の消耗が激しい③健康管理上のリスクが高いことを考慮すると、毎月開催は見直すべきである。

■レギュラーメンバーが転倒や健康状態の悪化等を理由に不参加となるケースが多かった。安定した収入を確保しながら継続運営していくには、より多くの新規顧客獲得が必要である。

東日本大震災被災地バスツアー

・一般を対象とした「古民家再生バスツアー」の催行（9便）
・県内の中高生を対象とした「SHINGAN Project」の催行（1便）

一般向けの「古民家再生バスツアー」、中高生向けの「SHINGAN Project」（NPO法人生涯学習サポート兵庫との共同企画）と銘打って2012年度よりスタートさせた被災地バスツアーだが、2013年度は一般向け9便（7月～11月、3月）＋中高生向け1便（3月）の計10便を催行した。初年度は計8本の催行で、本数として前年比2便（いずれも一般向け）を上乗せすることができた。

両ツアーを合わせた参加人数は、のべ230名（前年比+41名）。売り上げは7,090,000円（同+1,336,945円）だが、2013年度は全10便にひょうごボランタリープラザ「被災地交流励ましボランティア活動助成事業」の助成（200,000円／回×10回＝計2,000,000円）を受けることができた。

3泊4日（うち2泊は車中泊）の行程と活動内容は概ね前年度の形を踏襲するものだったが、SHINGANでは姫路駅を出発地に加えた点と、古民家ツアーでは3月に1便を催行した点が新しい試みとなった。また、上記助成事業の趣旨である「励ましと交流」を組み込んだコンテンツとして、仮設住宅の訪問を各回に盛り込んだ。その分、活動場所での作業時間は圧迫されることとなったが、個々人のふりかえりに耳を傾けると、この「被災者との対話」が参加者に企画時点の想定を大きく上回る印象を与えたことがうかがい知れた。

集客状況は概して前年を上回る好調だったが、参加者からの聴き取りを踏まえつつ市場動向に目をやると、「被災地へ足を運びたい」という顧客ニーズが震災発生から3年を経てなお弱まっていないこと、そして、関西を定期的に発着するツアーバスが他にほぼ出ていないという現況が当ツアーにとって大きな追い風となっていることが見て取れる。前年も見られた中四国地方からの参加者が微増したことに加え、九州地方からの申込みが複数あったことからも、このことがうかがえる。

しゃらく旅倶楽部売上金額実績（単位：円）※H23年度「がんばっぺ東北ツアー」実績は除く

	受注型企画旅行	手配旅行	募集型企画旅行		合計	受注件数（のべ）	利用者数（のべ）
			この指とまれ	社会学校			
H25年度	4,604,081	7,129,238	630,610	9,078,500	21,442,429	184	592
H24年度	3,828,203	4,345,241	ー	5,999,335	12,911,927	115	441
H23年度	6,609,299	2,835,049	ー	ー	9,444,348	76	258
H22年度	7,350,295	4,128,467	ー	ー	11,478,762	49	132

事業報告 ~ ハイライト ~　「まさゆめ」Project

・難病や医療的ケアが必要な子供たちの夢を夢で終わらせることなく、市民の支援によって夢を叶えていく事業

2013 年
夢が叶ったチャレンジャー 5 名をご紹介します。

・夢生くん（当時 3 歳）
「ディスニーランドへ行ってディズニー音楽を聞きたい」

566ｇで生まれ、体にたくさんの障害をもつ夢生くん。これまでに一番遠くに出かけたのは兵庫県内の病院でした。2013 年 9 月 12 日～ 14 日にかけて、夢生くんとお兄ちゃん、お父さんお母さん 4 人と夢の見届け人である学生スタッフの旅が始まりました。初めての新幹線・モノレール・バス・アトラクション、そしてパレード。夢生くんは初めての空気に触れ、たくさんの音楽を聞き最高の笑顔を見せてくれました。帰ってきた時のご家族の笑顔は忘れられません。
夢生くんの夢実現の費用は総額 384,655 円でした。

・遼輔くん（当時 5 歳）
「日本ハムの大引選手とキャッチボールがしたい」

小児脳腫瘍と闘う遼輔くん。脳腫瘍の影響で、左目を失明している遼輔くん、「残る右目の視野が保たれている間に、なんとしてでも夢を叶えたい」そう強く願ったのは、ご家族だけでなく、まさゆめファミリーも同じ気持ちでした。9 月 14 日、ヤフオクドームでその夢は叶いました。大引選手は怪我で休場しているにも関わらず、遼輔くんのために時間を作り、キャッチボールとトスバッテイングをしてくれました。一球一球気持ちを入れて投げ込む遼輔くんの姿に、周りで見守っていたまさゆめファミリーは強く感動しました。
遼輔くんの夢実現費用は総額 252,706 円でした。

事業報告 ~ ハイライト ~　　「まさゆめ」Project

・直生くん（当時 13 歳）
「ロケットの打ち上げを見たい」

小児がんと闘う直生くん。鹿児島県内之浦宇宙空間観測所において打ち上げられたイプシロンロケットの打ち上げを見に行きました。打ち上げの延期が 2 回続き、3 度目鹿児島入りでようやく見ることができたロケットの打ち上げの成功でした。この日のために真夏の街頭に一緒に何時間も立ち、寄付を募りました。夢が叶った直生くん、これで病気と向き合えると語ってくれました。直生くんの夢実現費用は総額 418,158 円でした。

・慎之助くん（当時 18 歳）
「大好きな動物たちとたくさん触れ合いたい」

急性脳症後遺症で、肢体不自由と闘う慎之助くん。2 歳になる直前、高熱で倒れた慎之助くんは、動物が大好きな男の子で、最後に家族で行ったアドベンチャーワールドが思い出の場所です。修学旅行みたいにワイワイ旅行に行きたいという希望もあり、まさゆめファミリーの同級生の仲間と 9 月 28 日～ 29 日に白浜へでかけました。イルカと泳いだり、象に餌をあげたり、うさぎを抱いたりたくさんの動物たちと触れ合い、いろんな表情をみせてくれました。
慎之助くんに夢実現費用は総額 210,479 円でした。

・セナ君（当時 16 歳）
「自分の名前のルーツであるブラジルに行きたい」

福山形筋ジストロフィーと闘うセナくん。セナ君の名前はブラジル出身のF1 レーサー「アイルトン・セナ」に由来し、「世界に名を覇せる人になれ」と名付けられました。ブラジルに渡航するための費用は高額で、せなくん自身も体調の許す限り街頭に一緒に立ちました。街頭募金では、過去最高金額のご寄附を頂くことができましたが、同行スタッフの費用を集めることはできませんでした。セナくんご家族のみのブラジル渡航となりましたが、一番の目的であるリオのカーニバルを見ることができ、ブラジル国内の観光もすることができました。
せなくんの夢実現費用（航空チケットのみ）は総額 770,040 円でした。

事業報告　まさゆめ Project

チャレンジャー夢実現応援事業

・難病や医療的ケアが必要な子供たちの夢を夢で終わらせることなく、市民の支援によって夢を叶えていく事業

2013 年 4 月 1 日からスタートしたまさゆめ Project はチャレンジャー 8 名を抱え、平成 25 年度においては 5 名の子供たちの夢を叶えることができました。チャレンジャーの年齢層は 3 歳から 19 歳と幅広く、当初のまさゆめ Project の条件から外れてしまう 19 歳のチャレンジャー 2 名は、同級生応援プロジェクトとしてサポートして参りました。

主に、関西学院大学・甲南大学・兵庫県立大学・神戸松蔭女子学院大学・兵庫医療大学・くらしき作陽大学・神戸大学の学生さんが中心になり、時にはチャレンジャーの子供たちと一緒に三宮・神戸大丸前にて街頭募金活動を行いました。

平成 25 年度の街頭募金回数は約 69 回、募金頂いた総額は、2,012,022 円です。

もったいない Project

書き損じはがきや、未使用切手などの家庭に眠る不要な財産を回収して、換金し、その資金を緊急性の高いチャレンジャーの夢実現費用の一部にしたり、まさゆめ事務局運営の費用にするプロジェクト「もったいないプロジェクト」にも取り組みました。兵庫県立大学の開本ゼミの学生さんと連携し、不要な財産を入れてもらう返信用の封筒を作成しました。

配布には、多くの学生さんに加え、コープこうべ様、神鋼環境ソリューション労働組合様、また近隣の中学・高等学校の皆様にご協力をいただき、兵庫県内 35,000 戸の家庭に投函しました。総配布数 35,000 部、回収部数 579 部、回収率 1.65%、平均単価 1,971 円 / 部、総換金額 1,141,551 円でした。

クリスまさゆめ Project

12 月に行ったクリスマスイベント「クリスまさゆめプロジェクト」は、闘病生活で入院期間が長引いてしまい、会話も希薄になりがちな親子に、クリスマスプレゼントを通して楽しい会話や夢を取り戻してもらいたいという目的のもと行われました。兵庫県立こども病院とチャイルドケモハウスに入院中の子供たちを対象に、ほしいプレゼントの内容を親子で考えてもらい、その内容を聞き、サンタさんからのプレゼントを手渡し、最後にサンタさんに感謝の手紙を書いてもらうというものです。プレゼントの資金集めとして、街頭募金を合計 9 回行いました。その結果総額 276,572 円の資金を集めることができ、両施設合計で 239 名の子供たちにクリスマスプレゼントを渡すことができました。

事業報告　インキュベート

NPO 向けコンサルティング事業

- 生きがいしごとサポートセンター神戸西事業
- NPO 法人設立 / 運営相談窓口事業

生きがいしごとサポートセンター神戸西事業

兵庫県しごと支援課からの補助を受け、2006 年度から当事業を運営している。兵庫県内のほかの中間支援組織との差異化を図るため、当社の強みであるソーシャルビジネスの支援に注力してきた。また、2013 年度は試験的にいくつかの団体との協働事業を実施した。

相談事業（起業 12 件、拡充 4 件）、「神戸の社会起業家」育成シリーズ（82 名）、NPO アドバンス・マネジメント・プログラム（27 名）、NPO 就職・転職ガイダンス（44 名）など特色ある事業を実施することができた。一方、従来からの課題である職業紹介事業、高齢者向け事業は十分な実績を上げることができておらず、課題を残すこととなった。

また、緊急雇用創出事業のひとつである生きがいしごとサポートセンター全県展開事業を行い、淡路島アートセンターとともに、AAT（Awajishima Art Tanuki）トークセッションを開催した。

NPO 法人設立 / 相談窓口事業

神戸市市民協働推進課（協働と参画のプラットホーム）からの委託を受け、2012 年度から当事業を運営している。相談窓口業務では、NPO 法人の設立（29 団体）、定款変更（12 団体）、役員変更などさまざまな相談に対応した。説明会は、NPO 法人設立入門（18 名）、NPO 法人運営手続き（13 名）で開催した。

2012 年度と比べ、事業報告書や会計に関する運営面での相談が多く、私たち自身の能力向上も図っていかなければならない。また、2013 年度は地縁団体の NPO 法人格取得という案件もいくつかあった。

協働コーディネーター事業

- パートナーシップ活動助成に係る業務
- 協働と参画のプラットホーム通信発行に係る業務
- 市と NPO 等との協働のコーディネート業務
- KOBE ソーシャルビジネスマーク認証およびソーシャルビジネス推進に係る業務

神戸市市民協働推進課（協働と参画のプラットホーム）からの委託を受け、2010 年度から当事業を運営している。2013 年度は NPO だけではなく、ほかのセクター（企業、行政など）が主催するイベントやセミナーに積極的に足を運び、ネットワークをつくった。その過程で、高齢者、障害者、子ども、外国人などの分野で活動する従来型の NPO と、企業や行政の新しい動きであるソーシャル系活動の間に断絶があるということがわかった。

従来型の NPO と協働と参画のプラットホームは、パートナーシップ活動助成、アドバイザー派遣などを通じて、今までネットワークを作ってきた。しかし、ソーシャルビジネスを対象とする各種施策は、そのような従来型の NPO にさほど浸透しておらず、またソーシャル系活動にもリーチできていない。パートナーシップ活動助成やアドバイザー派遣はそれぞれイグジット（出口）が明確に定められている反面、ソーシャルビジネスの施策はイグジットが曖昧なままであることが原因であるだろう。

マルチステークホルダーによる協働が進む中、社会課題を解決することは NPO の専売特許ではない、ということがこの数年間の大きなトレンドになりつつある。今後、私たちが協働と参画のプラットホームと取り組むべきことは施策の再設計ではなく、NPO 以外のセクターに神戸市の施策を利用してもらい、それらの事業体との協働を推進するということが重要になろう。

事業報告　インキュベート

特定非営利活動法人事務局サポートアップ事業

・アンケート調査による支援ニーズ調査及び効果的な支援手法の検討
・事務局職員ための事務実務講座の企画実施
・NPO 法人支援モデルの事業実施

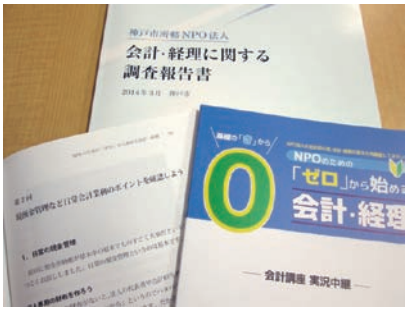
神戸市市民協働推進課から国の緊急雇用対策（起業支援型地域雇用創造事業）として委託を受けた。具体的には以下の３つの業務を実施した。

神戸市所轄 NPO 法人への会計・経理に関するアンケート調査の実施

神戸市所轄の NPO 法人 681 団体を対象にアンケート調査を実施。調査結果は、「神戸市所轄 NPO 法人　会計・経理に関する調査報告書」としてまとめ、中間支援団体、神戸市所轄の NPO 法人へ配布した。

『NPO のための「ゼロ」から始める会計・経理』講座、全 6 回開催及び小冊子の発行

NPO 法人の会計担当者（初心者）を対象に、NPO 会計、特に日常の経理処理方法にこだわった講座および、会計基準、企業会計経験者に向けた講座を全 6 回にわたり開催。参加者人数は延べ 111 人（平均 18.5 人 / 回）。また、このセミナー前半 4 回分の講座を実況中継風にまとめた小冊子を作成。神戸市所轄の NPO 法人へ配布した。今年度以降、相談支援を行う際にも配布したい。



神戸市内ＮＰＯ法人を対象とした会計にかかわる支援モデル事業の実施

アンケート調査をふまえ、合計 9 団体に対してモデル事業「会計基盤構築サポート」および「出張会計支援（会計ソフト入力アドバイス等）」を実施。各 NPO 法人への支援としてこれまでにない支援内容を検討したが、現時点ではビジネスとして実施予定の業務を打ち出せていない。

ふるさと兵庫“すごいすと”（兵庫で活躍するすごい人）情報発信事業

・ふるさと兵庫“すごいすと”ウェブサイトの制作

兵庫県県民生活課の委託を受けて実施した事業（緊急雇用就業機会創出事業）。県民のふるさと意識の醸成を最大の目的に、県内で地域を元気にしている人材「すごいすと」を取り上げて取材を行い、主にその活動内容と人となりを紹介するウェブサイト（http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/sugoist/）を制作した。

当事業の専属従事者として 2 名のスタッフを新規に雇用（うち 1 名は 2014 年度も継続雇用）し、管理スタッフ２名を加えた計４名の体制で取り組んだ。

７月の創刊から年度内に計７号を発刊し、18 名の「すごいすと」情報を掲載した。サイトは各人について、①トップページ（人物のワンショット写真１枚）、②紹介ページ（人物・活動の写真 6 枚と 60 字程度の短文３つ）、③取材記（約 3,000 ～ 5,000 字）の３部から構成されている。2013 年度中のページ訪問者数は、28,070 件を数えた。

当初は兵庫県への UIJ ターンの促進を主な目的に想定されていた事業だったが、「ふるさと意識の醸成」が県の主要施策に位置づけられたこともあってか、県側の制作への関与は事前の想定以上に手厚いものとなった。特に取材記の構成と執筆をめぐっては、県側のリクエストを管理スタッフが十分に消化できず、担当課の中に運営体制についての疑念を生じさせただけでなく、新規雇用の専従スタッフに時間的・心理的な負担をかけることとなったのは、事業遂行上最大の反省点となった。

すごいすとの人選はすべて県が担当し、公開する写真や文章の内容および表現方法にも詳細な修正が入るなど、しゃらくの独自性を制作に活かし切ることが難しい環境の中、専従スタッフは県とのやり取りを丁寧に行いながら、誠実に制作を進めてくれた。その甲斐あって、でき上がったサイトは一般の閲覧者から大いに好評を博しており、最終的には県からも合格点の評価を得ている。

メディア掲載情報

まさゆめ Project

神戸新聞（2013 年 4 月 19 日）

「宇宙に飛び立つロケットを見たい」「ディズニーランドでディズニー音楽を聴きたい」―。難病の子どものそんな夢をかなえようと、神戸市須磨区のNPO法人「しゃらく」が「まさゆめプロジェクト」を始める。市民や企業から寄付を募り、看護師らが同行する旅を企画。第1弾として3人の夢の実現を目指す。（木村信行）

難病の津村南さんと家族（2001年）

難病の子 夢の旅

まず3人 東京へ、鹿児島へ

神戸のNPO企画

しゃらくは2006年に設立。高齢者への介助付き旅行などを企画し、08年には兵庫県の「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」を受けた。

昨年8月には、プロジェクトの本格実施に向け、加古川市の難病女性の旅を支援。青森県・白神山地への2泊3日の旅を実現させた。

今回、夢に挑戦する一人、加古川市の福原夢生（ゆめ）ちゃん（2）は566gの超未熟児で生まれ、重度の障害があり、19回の入退院を繰り返した。

目は見えないが、耳はしっかり聞こえ、集中治療室で看護師が流したディズニー音楽に生まれて初めて、にっと笑った。

以来、ディズニー音楽の大ファンだ。父親の正人さん（38）は「実現すれば初めての家族旅行。夢生のとびきりの笑顔が見たい」と話す。

西宮市の津村南（みなみ）さん（12）は、筋肉が育たない難病。生後、医師に「1年生きられないかも」と言われたが、今は元気に特別支援学校に通う。

夢は「大好きなお姉ちゃんと、やったことのないことをいっぱいやる」。東京への旅で、姉妹が大ファンのアイドルグループ「嵐」に会うのが目標だ。寄付金のめどが付けば何度も手紙を書き、面会を申し込む。

神戸市垂水区の小林瑶生（たかお）君（12）は1歳で小児がんになり、再発の不安を抱えながら暮らす。趣味は天体観測。「本当は宇宙に行きたいけど、それが無理ならロケットを見たい」といい、鹿児島県の種子島宇宙センターでロケットの打ち上げに立ち会う旅を計画する。

プロジェクトを企画したしゃらくの小倉譲代表（35）は19歳で入院したとき、仲良くなった同室の男の子が小児がんで亡くなった経験が忘れられない。「病気を治すことはできないが、夢のスタートラインに立つ後押しはできる。応援してくれる人と家族の協力で、夢を正夢にしたい」と話す。

しゃらくのホームページで3人の動画メッセージを公開し、寄付を受け付けている。目標額は3人分で140万円。☎078・735・0163

上 兄に抱っこされる福原夢生ちゃん（2012年） 下 小児がんの手術を終え歩く練習をする1歳当時の小林瑶生君（2001年）

しゃらく旅倶楽部

神戸新聞（2013 年 5 月 30 日）

正平調

雨に打たれてうなだれる花があれば、雨を潤いにして輝く花もある。ハナショウブは後者の代表格である◆一昨日の近畿地方に続き、関東甲信も昨日、梅雨に入った。日本列島の多くの地域がどんよりとした鈍色の季節を迎えている。気分までくすみそうなこの時期、街の中に鮮やかな花が一つでもあれば、心が少しは晴れる。その一つが、紫や白色がさわやかなハナショウブ◆神戸のNPO法人「しゃらく」は、介助の要る高齢者の旅を支えている。その記録をホームページで読んでいたら、この花にまつわる、ささやかな物語が目に留まった。夫が末期がんという夫婦が、日帰りの旅へ出ようとする。さて、どこへ◆妻は夫の行きたい場所へと言い、夫は妻の希望をかなえたいと願う。何度も話し合った末、2人は三田にあるハナショウブの名所へ行くことにした。妻は30年ほど前にこの花を見て以来、6月になるとよく話題にしていた。それを夫が覚えていた◆喜ぶ妻に目を細めた1週間後、体調が悪化して入院する。その1週間後、夫は静かに息を引き取った、ホームページの記録は告げる。30年ぶりのハナショウブが、2人のつくった最後の結び目を飾った。別れは悲しいけれど、読みながら気持ちがちょっとぬくもる◆6月には各地の名所も開く。見ごろは中旬という。美しい花に足を止め、鈍色の空をしばし忘れる姿が、あちこちにあ

メディア掲載情報

まさゆめ Project

読売新聞（2013 年 5 月 17 日）

難病の子 旅の夢応援

NPO「しゃらく」

あす神戸で募金活動 学生も協力

東京で「嵐」に会う／ディズニーランド／ロケット発射見る

治療のために自宅や病院を離れられない難病の子どもたちの夢を、旅を通じてかなえる「まさゆめプロジェクト」に取り組む神戸市のNPO法人「しゃらく」が18日午前10時から、協力を呼びかける街頭募金を神戸市中央区のJR三ノ宮駅付近と大丸神戸店前で行う。小倉譲代表理事(35)は「募金を通じて福祉を必要とする人たちの存在を訴えたい」と話す。（南部さやか）

プロジェクトは昨夏から実施。近畿在住で、難病または重症認定患者の18歳未満の子どもを対象とし、NPOが旅行先まで同行して介助をサポートする。

昨年8月、代謝に異常が生じる難病「ニーマン・ピック病C型」を患う加古川市立加古川養護学校高等部3年大坪七海さん(17)が、両親や妹と2泊3日で青森県の白神山地などを訪れた。寝たきりで酸素吸入器が手放せない状態だが、母の雅子さん(46)は「夢の家族旅行がかない、七海の表情が生き生きとしていた。旅行することを敷居が高く感じていたが、おかげで心から楽しめた」と振り返る。

現在、企画中のプロジェクトは三つあり、そのうち、生まれた時から全身の筋肉が萎縮する難病と闘う西宮市の津村南さん(13)の夢は「いろいろな乗り物に乗って東京に行き、ジャニーズの嵐に会うこと」。人工呼吸器が外せず、荷物も多くなるため、これまで外出は控えがちだったという。母の博子さん(48)は「元気な子どもたちと同じようにいろんな経験をさせてあげたい」と旅の実現を願う。

ほかにも、体重566㌘の未熟児として生まれ、入退院を繰り返す男児(2)は「家族でディズニーランドに行きたい」といい、1歳になる前から小児がんと闘う男児(13)は「種子島でロケット発射を見たい」と期待に胸を膨らませる。

課題は資金集めだ。公共交通機関や宿泊先などへの手配や事前調整、旅行を手助けする同行者も必要で、表理事が非常勤講師を務める県立大や関西学院大の学生らに呼びかけて募金を計画した。受け付けは8月31日まで。問い合わせは、しゃらく（078・735・0163）。

募金を呼びかける練習をする小倉代表理事（右）と学生たち（西宮市市民交流センターで）

インキュベート

県民だより（2013 年 8 月 31 日）

ふるさと・ひょうごへの想いを育てる

勉学や就職のために外に出ていても、ふるさとの魅力を再認識し、戻ってくれることが地域の活力維持につながります。

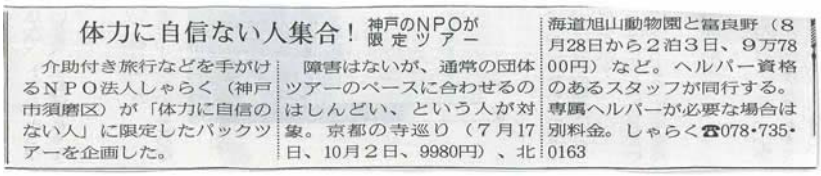
県では、兵庫を元気にしている人を「すごいすと」として紹介し、その"生きざま"などを通して兵庫の魅力を全国に発信するネット情報誌「ふるさと兵庫"すごいすと"」を今年7月に創刊。ふるさと意識を喚起し、ひょうごのファンを増やします。

また、U・J・Iターン就職や就農・帰農を支援し、ふるさとでの挑戦を応援しています。

㊐県県民生活課 ☎078（362）4015 F078（362）3908

しゃらく旅倶楽部

神戸新聞（2013 年 7 月 1 日）



体力に自信ない人集合！ 神戸のNPOが限定ツアー

介助付き旅行などを手がけるNPO法人しゃらく（神戸市須磨区）が「体力に自信のない人」に限定したパックツアーを企画した。

障害はないが、通常の団体ツアーのペースに合わせるのはしんどい、という人が対象。京都の寺巡り（7月17日、10月2日、9980円）、北海道旭山動物園と富良野（8月28日から2泊3日、9万7800円）など。ヘルパー資格のあるスタッフが同行する。専属ヘルパーが必要な場合は別料金。しゃらく☎078・735・0163

メディア掲載情報

まさゆめ Projet

神戸新聞（2013 年 6 月 28 日）

（第３種郵便物認可）　神戸新聞　2013年（平成

NPO法人しゃらく代表理事

小倉　譲さん（35）

編集委員インタビュー

夢への挑戦 誰にも平等

難病の子ども、民間で支える意義は？

市民が助け合う社会に

「飛び立つロケットを見たい」「大好きなアイドルに会いたい」。子どもにとって夢は、心の成長に欠かせない。しかし難病などで医療ケアが必要な子は、親の心配そうな顔を見つめ「迷惑をかけてしまう」と、夢を心に閉じ込め、親も「あきらめてはいないか」と不安を募らせる。そんな親子を応援する「まさゆめプロジェクト」。企画した神戸のNPO法人しゃらくの代表理事・小倉譲さんは「社会全体が助けあう仕組みをつくりたい」と話す。（桜井　和雄）

―プロジェクトを企画したきっかけは。

「私もかつて病弱だった。神戸の病院に入院していたとき、一つ年下の青年と仲良くなった。生まれたときから入退院を繰り返していた彼と、ある時、将来の夢について語り合った。『編集者になりたい』という彼の話に『できるはずがない』と笑ってしまった。『僕にもできることはある。働いて両親に楽をさせてやりたい』と、彼は泣いていた。笑った自分が、情けなくなった。その二カ月後、彼は小児がんのため、19歳で亡くなった」

「夢へのスタートラインはすべての人に平等ではない。スタートラインに立ち、努力できることは、本当に幸せなことなのだと感じた。この体験が活動の原点だ」

―夢に挑戦する子の親はどう考えている。

「ある子どもは、命をつなぐための手術で、声を失った。この子の夢は『アイドルグループ嵐に会うこと』。だが親は『これまで生きるために多くの決断をしてきた。命をつなぐことで精いっぱいだった』と振り返る。子どもたちも思いを抑え込む。『命の大切さは常に考えている。でも親が心配するのでは』と思って か、考えていないふりをしている』と話す親もいた」

「『ディズニーランドで、家族とディズニー音楽を聞きたい』という夢を持つ子の親は『社会に、子どもの病気のことを知ってほしかった』と話す。そして『心に余裕が持てず、今まであきらめてしまっていたことを、実現できることになり、うれしい』と喜んでくれた」

―国の支援施策は十分か。

「国の施策は、あくまで最低限の生活を維持するためのレベル。夢を実現したり人生の目標を追い求めようとすれば、国に頼らずに、市民がお互いに助け合うことで補っていくしかない」

「まさゆめプロジェクトは誰もが公平にチャレンジできる社会の実現が目的。そのなかで今は、難病などで医療ケアを必要とする子どもに絞っている」

―活動は関西圏限定か。

「支援の質を保つために、しゃらくとしては関西以外では活動しない。プロジェクトも始まったばかりで手探り状態。しかし、誰もが公平にチャレンジできるこのシステムを成功させて、いずれは全国に広げていきたい。希望する団体には、ノウハウを無償で提供する。難病の子ども以外にも支援できるなら、実践してほしい。今、九州のNPO法人のメンバーが、研修している」

―活動資金はどうする。

「それが一番の問題だ。現在は、すべて募金で賄っている。企業や個人の賛同者からの寄付を募り、街頭募金も行っている。お金で夢を買うという形にはしたくないから、挑戦する子どもたちも、できるだけ参加して、自分たちの現状を社会に訴えている。ただ、活動の継続に十分とはいえない。そこで、書き損じで不用になった年賀状などのはがきを提供してもらう『もったいないファンド』という活動も考えている。プロジェクトの趣旨を印刷した封筒を兵庫県内の全戸に配り、はがきなどを入れて返送してもらう計画だ」

―多くの学生が参加している。

「若い世代が関心を持ってくれたことは大きな成果だ。関学大や兵庫県立大の学生を中心に、約70人が参加している。ほとんどが自主的に集まってくれたメンバー。活動をPRする垂れ幕やTシャツを作り、募金活動の日程や方法も、すべて学生が中心になって考え行動している」

「例えば車いすの人が階段で困ってたら、その場に居合わせた多くの人は『手伝おう』と心で思っていても、結局見て見ぬふりをして通り過ぎていないか。若者たちは社会の大きな力であり、次代の中心を担う。彼らが意識を変えて、困っている人に手を差し伸ばせば、周囲も変わるはず。そして、助けあうことが当たり前の社会になっていってほしい」

■おぐら・ゆずる
1977年、神戸市北区生まれ。立命館アジア太平洋大学マネジメント学部卒。2006年に「NPO法人しゃらく」を設立。要介護や高齢者の旅行を手助けする企画などを手がけている。

「子どもたちの夢が一つかなうごとに、桜を1本植えたい」と話す小倉譲さん＝神戸市須磨区、NPO法人しゃらく

ひとこと

「見て見ぬふりをしていないか」。耳に痛い言葉だ。恥ずかしさが邪魔をする。ちょっとの勇気と思いやりで、社会は少しずつでも変わるだろうか。「きっと良くなる」。小倉さんの笑顔を信じたい。

メディア掲載情報

インキュベート

神戸新聞（2013 年 8 月 6 日）

金曜日　神戸新聞　（第3種郵便物認可）

「地域元気に」身近な達人登場

「すごいすと」〝創刊〟

県は25日、地域を元気にしている身近な人を「すごいすと」と名付け、インターネット上で紹介する情報誌「ふるさと兵庫　すごいすと」の公開を始めた。創刊号では県内各地で活躍する5人を紹介。今後も順次増やしていく予定で、地域で生き生きと暮らす人の姿を通し、〝兵庫ファン〟の拡大を目指す。（岡西篤志）

県、ネットで

「兵庫ファン」拡大へ

写真中心に紹介

県が地域の活力づくりのために取り組む「ふるさと事業」の一環。県内で生まれ育った人だけでなく、移り住んできた人にも兵庫への愛着心をはぐくんでもらおうと始めた。

紹介ページでは写真を中心に、その人の活動や物語を紹介する。初回は大阪から姫路市の家島にIターンし、観光客に魅力を伝える「いえしまコンシェルジュ」の中西和也さん、同じく大阪から朝来市に移り、シカ肉の消費推進などに力を入れる猟師の吉井あゆみさんら5人が登場。紹介ページから、地域の名所や食、特産品、行政情報なども得られる。

「すごいすと　兵庫」で検索。県は「すごいすと」の情報を募集している。ホームページ上からコメントも書き込める。

県民生活課☎078・362・4015

兵庫の身近なすごい人「すごいすと」を紹介するホームページ

しゃらく旅倶楽部

神戸新聞（2013 年 8 月 7 日）

古民家を再生 復興拠点に

宮城・石巻へ2年目バスツアー

「住み慣れた地域に戻す」

神戸のNPO法人 ボランティア募集

つなぐ 東日本大震災

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市の尾ノ崎地区で古民家の再生に取り組む神戸市のNPO法人「しゃらく」が、2年目のバスツアー参加者を募集している。昨年夏から古民家や地域のがれき撤去を始め、今回が本格的な修復になる。メンバーは「古民家を拠点に、再び人々が集う尾ノ崎を取り戻したい」と話す。（木村信行）

同地区は北上川の河口近くにあり、津波で大部分が浸水。住民193人のうち12人が亡くなった。石巻市は「防災集団移転促進地域」に指定したが、高台移転は進んでいない。

地区には、江戸時代に岩手県で活躍した大工集団「気仙大工」が建てた築100年以上の頑丈な民家が数軒、津波に耐えて残った。

しゃらくは昨年7月、地域住民らと協力し、古民家再生プロジェクトを開始。昨年末までに兵庫から7回、計150人のボランティアを派遣し、古民家の清掃や漁業で生計を立てる住民の網の修繕などを手伝った。

2年目の活動は古民家の床張り、土壁塗り、裏山の避難所づくりなど。スタッフの国本豊泰（とよやす）さんは「防災教育の拠点とし、てにぎわいを取り戻し、地元の人たちが住み慣れた地域に戻る後押しをしたい」と話す。

残席があるのは、8月30日、10月11日、11月1日出発の計3回。各3泊4日（うち車中2泊）。参加費は1人2万9800円。しゃらく☎078・735・0163

古民家の再生に取り組むボランティア＝7月13日、宮城県石巻市尾ノ崎（しゃらく提供）

メディア掲載情報

まさゆめ Project
神戸新聞（2013 年 9 月 13 日）

ロケット見学の夢 再び

イプシロン延期で〝お預け〟

垂水区の中学1年生、小林直生君(13)は1歳で小児がんになり、今も再発の不安を抱えている。趣味は天体観測。星空を見上げては「宇宙に行きたい」「ロケットを見たい」と夢をふくらませていた。

（木村信行）

垂水の中1・小林直生君 難病克服の力に

その夢が、実現の一歩手前で足踏みしている。夢を実現するNPO法人し

8月22日、小林君は宇宙航空研究開発機構（JAXA）が予定していた新型ロケット「イプシロン」の打ち上げを見に、鹿児島県肝付町を訪れた。支援しの2人の難病の子の夢と合わせ、約2千

ロケットの発射を待つ小林直生君＝8月27日、鹿児島県肝付町（しゃらく撮影）

支援のNPO 緊急募金を呼び掛け

人から140万円が集まった。

だが、22日の打ち上げは延期に。一度、神戸に戻って出直した27日、「今度こそ」と胸が高鳴った。雲一つない晴天だ。2㌔先に発射台が見える。3㌔ほどの白いロケットを双眼鏡で見つめた。

「5、4、3、2…」。ほかの見学者と一緒にカウントダウンの声を上げた。高まる緊張。だが…。ロケットは飛ばず「発射中止」の放送が流れた。

14日に打ち上げが予定されるイプシロンロケット

「こんなこともあるさ」。誰よりも冷静だった小林君だが、神戸に戻った翌朝、「やっぱり、もう一度」と思った。

でも、予算は尽きた。緊急募金で6万円が集まったが、あと8万円足りない。しゃらく代表の小倉譲さんは「今度こそ小林君の夢をかなえたい」と再度、募金を呼び掛ける。3度目の打ち上げ予定は14日に迫る。

振込先は三井住友銀行須磨支店 口座番号 普通3788756 特定非営利活動法人しゃらく「まさゆめプロジェクト」専用口座 ☎078・735・0163

インキュベート
神戸新聞（2014 年 3 月 7 日）

移住し地域おこしの2人

起業で潜在ニーズ発掘を

洲本 商店主らと意見交換

NPOで働きたい人のための就職・転職ガイダンスが22日午後1時～4時半、神戸市青少年会館（中央区雲井通5）である。

生きがいしごとサポートセンター神戸西NEXT（須磨区）と、同センター播磨東（明石市）の共催。

京都のNPO法人ユー スビジョンの芝原治美さんが、NPOの働き口の見つけ方や職場環境を説明し、NPOに就職・転職した20～30代の若手が体験談を語る。その後、個別相談会がある。

22日、神戸 就職説明会

NPOで働かないか

無料。21日までにNEXTのホームページなどから申し込む。☎078・731・2251

インキュベート
神戸新聞（2014 年 2 月 20 日）

NPO 法人しゃらく
BS フジ　一滴の向こう側（2013 年 12 月 18 日）

第8回 あきらめさせない～服の外科医と介護旅行～

穴があいたり、ほつれてしまった服をかけつぎという技で元の姿に再現する服の外科医、松本孝夫。年間1万5千着以上もの衣服の修繕をこなしている。
そして、旅行に行きたくても人に迷惑をかけるという理由から尻込みしてしまっている人たちのために、安心して楽しめる旅をコーディネートしている小倉譲。
今回は、“あきらめさせない”という想いに駆られた情熱あふれる2人の姿を4週にわたってお届けする。

松本孝夫

「江見屋かけつぎ専門店」会長
・年間1万5千着以上もの衣服修繕依頼をこなし、他のかけつぎ専門店で断れた依頼も引き受ける。名古屋の名かけつぎ店「江見屋かけつぎ専門店」会長。
・1962年に自らが創業して以来、「一針入魂」をモットーに、依頼者の服にかける想いを大切にし、熟練の技と豊富な知識を以て、一着一着の修繕にかける労は絶対に惜しまない。その仕上がりを聞きつけ、依頼は全国から殺到している。

小倉譲

特定非営利法人しゃらく 代表理事兼事務局長
・大好きな祖父との最後の旅行で「旅は最高のリハビリ！」であると実感。そんな感動をより多くの人と共有し、誰もが最期まで人生を謳歌できるような社会にしていきたいとの想いから起業を決意。
・バラエティに富んだツアープランを展開している他、難病の子ども達の夢の実現を目指す「まさゆめプロジェクト」のマネジメントも行っている。

決算書　活動計算書

2013年度特定非営利活動に係る事業会計活動計算書（2013年4月1日から2014年3月31日まで）

（単位：円）

科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1．受取会費			
正会員受取会費	75,000		
賛助会員受取会費	3,000	78,000	
2．受取寄付金			
受取寄付金	6,335,427	6,335,427	
3．受取助成金等			
受取助成金	3,175,000		
受取補助金	7,577,968	10,752,968	
4．事業収益			
自主事業収益	22,222,057		
受託事業収益	29,747,000	51,969,057	
5．その他収益			
受取利息	4,756		
雑収益	1,765	6,521	
経常収益計			69,141,973
Ⅱ 経常費用			
1．事業費			
(1)人件費			
給料手当	27,338,750		
法定福利費	3,831,571		
通勤費	609,566		
人件費計	31,779,887		
(2)その他経費			
印刷経費	5,030,109		
旅費交通費	9,282,645		
通信費	1,656,767		
謝金	1,667,385		
新聞図書費	60,436		
機器備品費	300,230		
その他経費	360,941		
宿泊費	1,925,191		
交際費	20,480		
支払手数料	191,727		
水道光熱費	168,485		
雑費	141,079		
リース料	295,848		
保険料	465,368		
会場使用料	128,917		
消耗品	1,792,719		
食事代	684,214		
租税公課	63,050		
委託費	2,588,076		
広告宣伝費	526,057		
地代家賃	94,500		
支払利息	47,194		
研修費	84,490		
車両費	199,575		
諸会費	125,800		
賃借料	1,479,635		
会議費	4,390		
その他経費計	29,385,308		
事業費計		61,165,195	
2．管理費			
(1)人件費			
給料手当	1,188,000		
法定福利費	267,723		
福利厚生費	216,495		
人件費計	1,672,218		
(2)その他経費			
採用教育費	43,250		
通信運搬費	296,805		
水道光熱費	53,935		
旅費交通費	239,234		
交際費	208,436		
寄付金	30,000		
慶弔費	10,000		
会議費	143,801		
消耗品費	191,922		
印刷経費	37,375		
修繕費	39,900		
地代家賃	434,400		
保険料	688,614		
租税公課	1,346,652		
諸会費	101,000		
リース料	161,028		
支払手数料	622,732		
雑損失	4,218		
雑費	10,000		
その他経費計	4,663,302		
管理費計		6,335,520	
経常費用計			67,500,715
Ⅲ 経常外収益			
1．固定資産売却益	0		
経常外収益計		0	0
Ⅳ 経常外費用			
1．固定資産売却損	1,310,880		
経常外費用計		1,310,880	1,310,880
当期経常増減額			330,378
当期正味財産増減額			330,378
前期繰越正味財産額			13,060,595
次期繰越正味財産額			13,390,973

決算書　賃借対照表

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ 資産の部			
1．流動資産			
現金	201,575		
小口現金	17,510		
普通預金	3,956,659		
売掛金	30,450		
未収金	6,368,891		
有価証券	15,000		
貯蔵品	23,434		
前渡金	188,087		
前払費用	2,247,703		
立替金	16,013		
仮払金	148,959		
流動資産合計		13,214,281	
2．固定資産			
(1)有形固定資産			
車両運搬具	6,159,240		
什器備品	592,402		
有形固定資産計	6,751,642		
(2)投資その他の資産			
保証金	2,440,000		
長期前払費用	299,250		
保険積立金	1,670,454		
投資その他の資産計	4,409,704		
固定資産合計		11,161,346	
資産合計			24,375,627
Ⅱ 負債の部			
1．流動負債			
未払金	6,920,150		
預り金	662,027		
未払消費税	928,600		
流動負債合計		8,510,777	
2．固定負債			
長期借入金	2,473,877		
固定負債合計		2,473,877	
負債合計			10,984,654
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		13,060,595	
当期正味財産増減額		330,378	
正味財産合計			13,390,973
負債及び正味財産合計			24,375,627

決算書　財産目録

（単位：円）

科　目・摘　要	金　額		
Ⅰ 資産の部			
1．流動資産			
現金預金			
現金	201,575		
小口現金	17,510		
三井住友銀行	3,216,042		
神戸信用金庫	373,169		
ゆうちょ銀行	367,448		
売掛金			
売掛金	30,450		
未収金			
兵庫県	3,380,831		
兵庫県社会福祉協議会	1,400,000		
しゃらく旅倶楽部事業	28,760		
IT・DTP事業	178,350		
その他未収金	1,380,950		
有価証券			
全国旅行業協会	15,000		
棚卸資産			
外貨	23,434		
前渡金			
家賃・駐車場など	188,087		
前払金			
前払費用	2,247,703		
立替金			
立替金	16,013		
仮払金			
旅費交通費など	148,959		
流動資産合計		13,214,281	
2．固定資産			
(1)有形固定資産			
車両運搬具			
トヨタノア・トヨタハイエース	6,159,240		
什器備品			
エアコン・パソコン	592,402		
有形固定資産計	6,751,642		
(2)投資その他の資産			
保証金			
全国旅行業協会・事務所・駐車場	2,440,000		
長期前払費用			
神戸不動産㈱礼金	299,250		
保険積立金			
生命保険・養老保険	1,670,454		
投資その他の資産計	4,409,704		
固定資産合計		11,161,346	
資産合計			24,375,627
Ⅱ 負債の部			
1．流動負債			
未払金			
給料・社会保険など	6,920,150		
預り金			
源泉徴収・社会保険など	662,027		
未払消費税等			
消費税	928,600		
流動負債合計		8,510,777	
2．固定負債			
長期借入金			
日本政策金融公庫借入金	2,473,877		
固定負債合計		2,473,877	
負債合計			10,984,654
正味財産			13,390,973

決算書　事業別損益

（単位：円）

科　目	しゃらく旅倶楽部	介護タクシー	まさゆめ	IT・DTP	助成・補助・委託事業	講師派遣・中間支援など	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ 経常収益									
1. 受取会費	0	0	0	0		0	**0**	78,000	**78,000**
2. 受取寄付金	0	0	6,317,473	0	0	0	**6,317,473**	17,954	**6,335,427**
3. 受取助成金等	2,175,000	0	1,000,000	0	7,500,000	0	**10,675,000**	0	**10,675,000**
4. 事業収益	19,267,429	718,329	0	1,670,699	29,747,000	447,700	**51,851,157**	0	**51,851,157**
5. その他収益	0	0	117,900	0	77,968	0	**195,868**	6,521	**202,389**
経常収益計	**21,442,429**	**718,329**	**7,435,373**	**1,670,699**	**37,324,968**	**447,700**	**69,039,498**	**102,475**	**69,141,973**
Ⅱ 経常費用									
(1) 人件費									
給料手当	4,126,700	0	1,050,000	0	22,162,050	0	**27,338,750**	1,188,000	**28,526,750**
法定福利費	535,098	0	152,975	0	3,143,498	0	**3,831,571**	267,723	**4,099,294**
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	**0**	216,495	**216,495**
通勤費	0	0	0	0	609,566	0	**609,566**	0	**609,566**
人件費計	**4,661,798**	**0**	**1,202,975**	**0**	**25,915,114**	**0**	**31,779,887**	**1,672,218**	**33,452,105**
(2) その他経費									
印刷経費	599,723	0	791,156	616,040	3,023,190	0	**5,030,109**	37,375	**5,067,484**
旅費交通費	6,480,096	857,019	468,219	7,630	1,435,121	34,560	**9,282,645**	239,234	**9,521,879**
通信費	364,456	690	123,876	37,782	1,129,963	0	**1,656,767**	296,805	**1,953,572**
謝金	56,000	0	0	0	1,611,385	0	**1,667,385**	0	**1,667,385**
新聞図書費	6,586	0	0	0	53,850	0	**60,436**	0	**60,436**
機器備品費	0	0	0	0	300,230	0	**300,230**	0	**300,230**
その他経費	215,821	0	145,120	0	0	0	**360,941**	0	**360,941**
宿泊費	1,460,693	0	363,786	0	88,700	12,012	**1,925,191**	0	**1,925,191**
交際費	5,000	0	15,480	0	0	0	**20,480**	208,436	**228,916**
支払手数料	69,257	1,785	93,390	3,465	23,830	0	**191,727**	622,732	**814,459**
水道光熱費	0	0	0	0	168,485	0	**168,485**	53,935	**222,420**
雑費	3,150	0	0	0	137,929	0	**141,079**	10,000	**151,079**
リース料	0	0	0	0	295,848	0	**295,848**	161,028	**456,876**
保険料	251,658	213,710	0	0	0	0	**465,368**	0	**465,368**
会場使用料	1,500	0	46,817	0	80,600	0	**128,917**	0	**128,917**
消耗品	136,994	960	889,025	0	765,740	0	**1,792,719**	191,922	**1,984,641**
食事代	537,034	0	118,680	0	28,500	0	**684,214**	0	**684,214**
租税公課	0	0	61,050	2,000	0	0	**63,050**	1,346,652	**1,409,702**
委託費	587,261	0	1,076,640	247,800	676,375	0	**2,588,076**	0	**2,588,076**
広告宣伝費	412,057	0	0	0	114,000	0	**526,057**	0	**526,057**
地代家賃	0	0	0	0	94,500	0	**94,500**	0	**94,500**
支払利息	0	47,194	0	0	0	0	**47,194**	0	**47,194**
研修費	56,090	0	1,000	0	27,400	0	**84,490**	43,250	**127,740**
車両費	0	199,575	0	0	0	0	**199,575**	0	**199,575**
諸会費	80,000	0	45,800	0	0	0	**125,800**	101,000	**226,800**
賃借料	38,875	634,500	13,910	0	792,350	0	**1,479,635**	0	**1,479,635**
会議費	0	0	3,690	700	0	0	**4,390**	143,801	**148,191**
寄付金	0	0	0	0	0	0	**0**	30,000	**30,000**
慶弔費	0	0	0	0	0	0	**0**	10,000	**10,000**
修繕費	0	0	0	0	0	0	**0**	39,900	**39,900**
地代家賃	0	0	0	0	0	0	**0**	434,400	**434,400**
保険料	0	0	0	0	0	0	**0**	688,614	**688,614**
雑損失	0	0	0	0	0	0	**0**	4,218	**4,218**
その他経費計	**11,362,251**	**1,955,433**	**4,257,639**	**915,417**	**10,847,996**	**46,572**	**29,385,308**	**4,663,302**	**34,048,610**
経常費用計	**16,024,049**	**1,955,433**	**5,460,614**	**915,417**	**36,763,110**	**46,572**	**61,165,195**	**6,335,520**	**67,500,715**
当期経常増減額	**5,418,380**	**△ 1,237,104**	**1,974,759**	**755,282**	**561,858**	**401,128**	**7,874,303**	**△ 6,233,045**	**1,641,258**

決算書　注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2011年7月20日　2011年11月20日一部改正　NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1)　固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

(2)　消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況
事業別損益の状況は別紙に添付します。

3. 使途等が制約された寄付等の内訳
使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

（単位：円）

内　容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備　考
兵庫県しごと支援課（補助金）	0	7,500,000	7,500,000	**0**	生きがいしごとサポートセンター事業のための補助金
兵庫県社会福祉協議会	0	1,000,000	1,000,000	**0**	まさゆめProjectのための助成金
兵庫県社会福祉協議会	0	2,175,000	2,175,000	**0**	古民家再生・SHINGANのための助成金
合　計	**0**	**10,675,000**	**10,675,000**	**0**	

4. 固定資産の増減内訳
固定資産の増減は以下の通りです。

（単位：円）

科　目	期首取得価額	取得	減少	**期末取得価額**	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
車両運搬具	6,364,080	2,956,040	2,460,880	**6,859,240**	700,000	**6,159,240**
什器備品						
業務用エアコン	240,000	0	0	**240,000**	0	**240,000**
パソコン	241,422	110,980	0	**352,402**	0	**352,402**
投資その他の資産						**0**
長期前払費用	315,000	0		**315,000**	△ 15,750	**299,250**
合　計	**7,160,502**	**3,067,020**	**2,460,880**	**7,766,642**	**684,250**	**7,050,892**

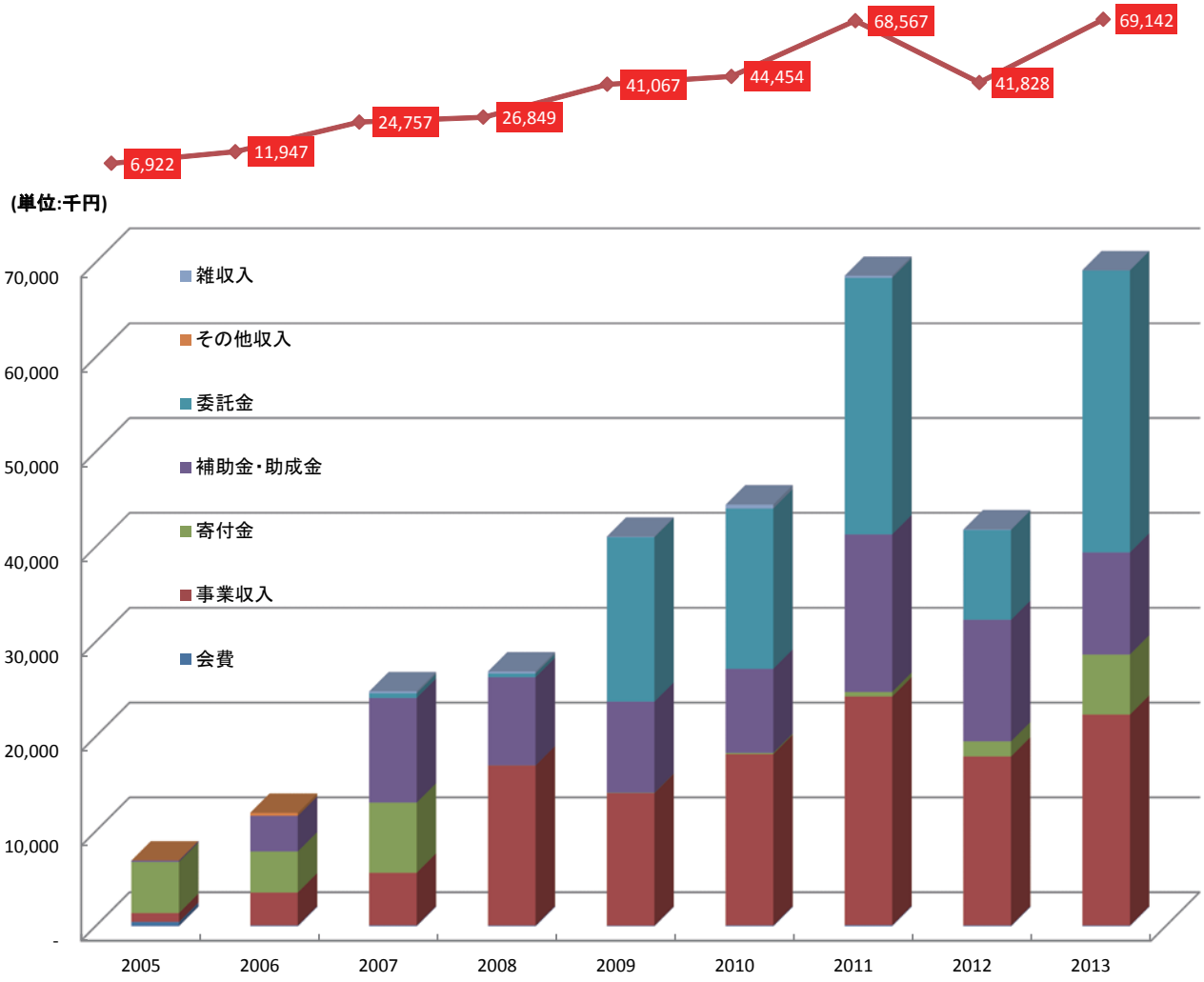
5. 借入金の増減内訳
借入金の増減は以下の通りです。

（単位：円）

科　目	期首残高	当期借入	当期返済	**期末残高**
長期借入金	1,931,877	2,500,000	1,958,000	**2,473,877**
合計	1,931,877	2,500,000	1,958,000	**2,473,877**

決算書　売上推移

しゃらく年間売上高推移と内訳



	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
会費	443,500	83,750	90,000	79,000	65,000	85,000	103,000	89,000	78,000
事業収入	933,609	3,462,820	5,535,645	16,850,642	13,966,416	18,058,367	24,103,990	17,794,211	22,222,057
寄付金	5,391,312	4,332,017	7,406,049	9,770	20,000	124,638	483,406	1,598,615	6,335,427
補助金・助成金	150,000	3,747,413	11,020,980	9,302,000	9,612,000	8,857,233	16,602,682	12,805,000	10,752,968
委託金			500,000	405,197	17,337,893	16,914,600	27,063,579	9,476,000	29,747,000
その他収入	3,909	321,134							
雑収入			204,588	202,321	65,694	413,757	209,881	65,642	6,521
売上	6,922,330	11,947,134	24,757,262	26,848,930	41,067,003	44,453,595	68,566,538	41,828,468	69,141,973

2013 年度を振り返って　総括

■事業と人が成長を感じた 1 年。

2013 年度の決算は、前年度比にて売上高が 2,700 万円増加の 6,914 万円と 2011 年度の売上高である 6850 万円をわずかではあるが超え過去最高の売上高を記録することができた。
その大きな理由は、行政からの委託事業収入①すごいすと、817 万円　②事務局サポート 1,258 万円が大きく起因したことが考えられる。
特に事務局サポートに関しては、スタッフである佐々木武史の貢献が大きく、神戸市内における NPO の経営実態を把握した上で会計を含むマネジメントに関する小冊子を発刊することができた。2014 年度に自主事業として実施することができなかったことは残念ではあるが、担当者の成長は評価に値する。
また、しゃらく旅倶楽部の成長も大きく決算に寄与したと考える。下記でも記載しているが、2013 年度よりスタッフになった辻明代の貢献が大きく、顧客誘導につながった。
2013 年度は、「組織は人なり」を実感する 1 年であった。

■事業評価

2013 年度は、自主事業にも目が出て枝ができた 1 年であると考える。
自主事業のしゃらく旅倶楽部事業を PPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）にて、キャッシュだけでなく人的コストも含めて表現してみると下記のようになる。

高（事業成長率）低		
	花形事業（収入大　支出大）	（収入小　支出大）問題児 パック旅行
	金のなる木　（収入大　支出小） しゃらく旅倶楽部 オーダーメイド旅行 古民家再生ツアー	（収入小　支出小）負け犬 この指止まれツアー
高 ←マーケットシェア→ 低		

□しゃらく旅楽部の成長
しゃらく旅倶楽部は 2012 年度は 12,911,927 円の売上に対して 2013 年度は、21,442,429 円と 8,530,502 円増と約 60％増の成長を成し遂げることができた。その原因は、

（1）定着したリピーター客／オーダーメイド旅行
2012 年度に苦しんだ減収減益の原因は、固定客離反が一つの原因であった。また離反した理由のもっとも大きかったのが東日本大震災によるお客様自身の自制によるオーダー減であったと考えている。しかし 2013 年度に関しては新たな女性スタッフの加入による固定客が定着しコンスタントにオーダーを頂けことが大きな好決算に寄与したと考える。

（2）新たな顧客層の開拓／この指とまれツアー
PPM では収入も支出も小さく「負け犬」に分類される。特に、収益が低い上に、必ず 2 名のスタッフの同行が必要となり、人件費を入れると採算性が乏しいのが現状である。同時に、この指とまれツアー専用で購入した車の借入金返済額を入れると赤字に陥る。しかし、軽度のお客様の開拓を目的に実施してきた「この指とまれ」ツアーであり、事業初年度にも関わらず、毎月計 2 回程度の旅行実施に成功した。また、当初は 10 人程度のお客様であったが 2013 年 3 月末時点で約 50 名に増加し、殆どのお客様がリピーターとして定着しているのが現状である。今後、「この指とまれツアーの成功なくしてしゃらく旅倶楽部ツアーの未来なし」という意気込みにて、「負け犬」からの脱皮は難しいにしても、お客様がパック旅行やオーダーメイド旅行を支える存在になるよう育てる必要性がある。

（3）3 年連続のパック旅行の失敗

事業成長のために絶対的に成長させないといけないパック旅行。その理由は、高収益ではあるが手間暇かかるオーダーメイド旅行、お客様は増えるが薄利多売のこの指とまれツアー。しゃらく旅倶楽部事業の安定化のためには、効率化を図りながらもオーダーメイド旅行に近い収益体制を確保するために、パック旅行の成功が不可欠であると考えている。しかし、定員６～８名のパック定員に対して１～２人の申し込みはあるが、最少催行人数には届かず催行に至っていない。要するに、「問題児」である。3 年チャレンジして成功しないとなると、事業廃止を視野に入れて考える時期ではある。しかし、現在の仮説では、身体能力が低下したお客様が宿泊付で多人数で旅行に行くことに抵抗があり、それがハードルとなって参加して頂けていないと考えると、上記「この指とまれツアー」にて参加したお客様が、多人数での旅行に慣れて頂きパックツアーに参加して頂けると想定している。そういった意味でも、①「金のなる木」から「問題児」であるパック旅行に対して資金注入を続け、②薄利多売ではあるがこの指とまれツアーに力を入れ顧客えを増やす一方、そのお客様をパック旅行への誘導に力を入れなければならない。

（4）古民家再生

東日本大震災にて多大なる被害を受けた石巻市尾ノ崎地区の古民家再生に関しては、2013 年度も引き続き実施し、計 16 回合計約 300 人のボランティアを現地に送ることができた。
この成功の要因は、市民の東日本大震災への関心がまだ高いと言うこと、また現地で何かをしたいと思う市民が多くニーズがあると判断できる。

□まさゆめ Project の好スタート

2013年度からスタートしたまさゆめProejctが、初年度より総収入が700万円を超える形となった。評価すべきことは、スタート年度より 50 名を超える学生ボランティアが参加し、街頭募金においても 200 万円以上の寄付が集まった。その結果、5 名のチャレンジャーの夢が実現した。

一方、学生のライフサイクルに合わせた活動になるため、夜間や週末をとわず活動することを余儀なくされるため、精神的な負担が大きいこと、またまさゆめ Project から人件費を出すだけの寄付が集まっていないことが課題である。

□水物経営からの早期脱却

「水物」。大辞泉 では、「そのときの条件によって変わりやすく、予想しにくい物事」と表記されている。行政の委託事業とはまさに「水物」である。2013 年度の事務局サポート事業においても、1,200 万円の委託費と大きかったが、2014 年度にはこの事業　は既にない。その他、生きがい仕事サポートセンター事業やすごいすと事業なども同様で委託費・補助費は決して低くなく、いざ無くなれば経営は一気に傾き、雇用を守るどころから法人を維持することも難しくなることは間違いない。そういった委託・補助事業は、我々法人の意思とは関係なく、知らない所で事業継続か廃止の議論がなされ、非情にも決まったことを一方的に通告される。そんな委託・補助事業に支えられている現状は、まさに水物経営である。

しかし、2013 年度は委託・補助事業だけでなく自主事業も伸びた。総決算高の 6,871 万円の売上に対して、自主事業での売上高が 3,086 万円と過去最高となった。後一歩で売上に対する 50％が自主事業となり、しゃらくの経営方針である 3（補助・委託）対 7（自主事業）の原理にはほど遠いが、大きく前進したと考える。

けれども、「もしも」の事態が起きた際に、経営破たんすれば何の意味もない。1 日も早く水物経営から脱却するために、自主事業を伸ばしていく経営努力が必要である。

事業計画

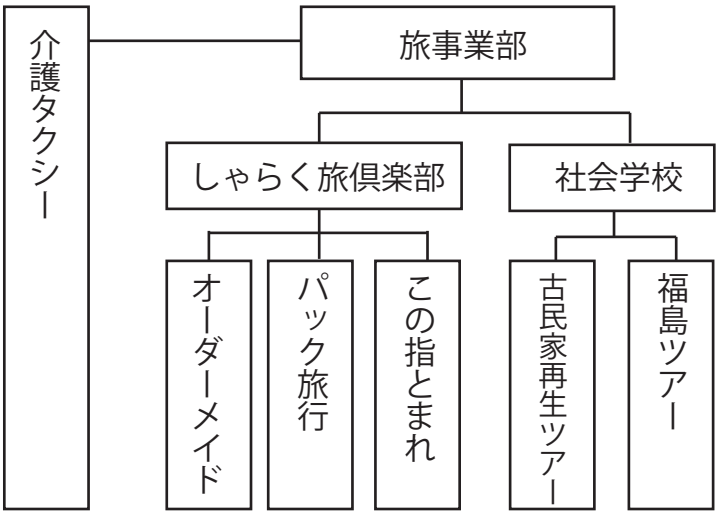
2014 年度事業計画　　NPO 法人しゃらく事業方針

■新たな「可能性」を追求すると共に「成長」の二文字をこだわる 1 年とする。

平成25年度は、主力事業であるしゃらく旅倶楽部は大きく成長した。しかし、財政的にはまだまだ厳しく、理想的な姿には程遠いと考える。そこで、大きな方針として、
（1）しゃらく旅倶楽部事業を再編する。
（2）各旅行部門の短期・中長期目標を明白にする。
上記 2 点を踏まえ、今後更なる成長を目指す土台構築に本年は注力することとする。

（1） しゃらく旅倶楽部事業再編

今まで、しゃらく旅倶楽部事業の中に、タクシー・古民家再生・オーダーメイド旅行があった。そのため、事業別での売上把握や経費区分が難しいだけでなく、ブランド別の戦略も描きにくい現状であったため平成 26 年度より、下記組織図に再編する。



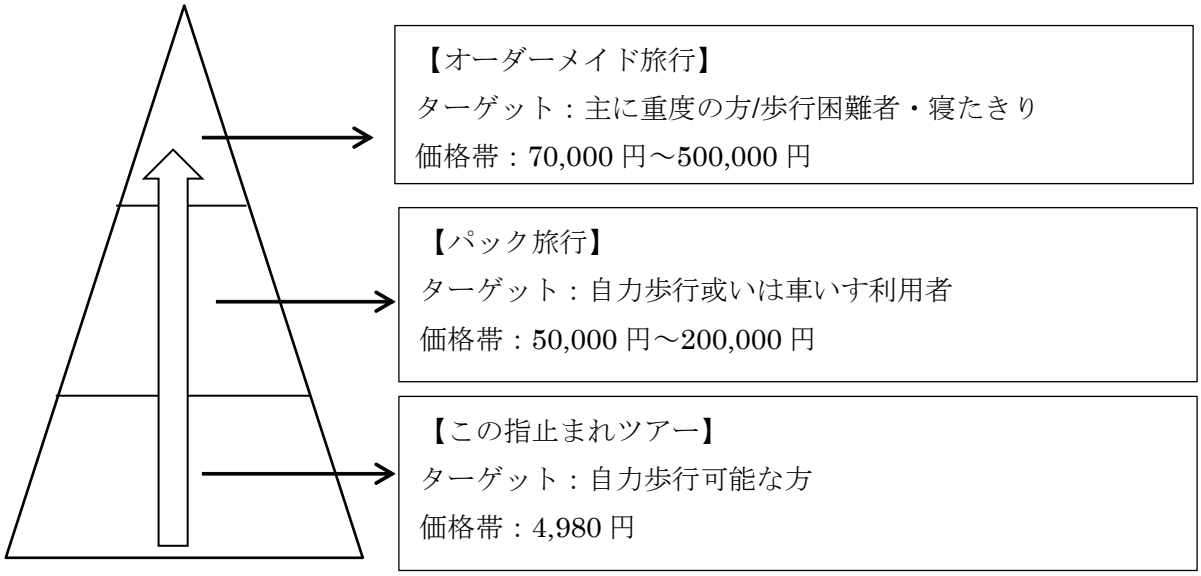
組織再編することにより、旅事業部での売上及び経費管理に加え、介護タクシー・しゃらく旅倶楽部・社会学校においても売上及び経費管理する体制を構築する。

（2） 各旅行部門の短期・中長期目標を明白にする

しゃらく旅倶楽部事業部において、総売り上げの目標として、2,500 万円の売上を目指すこととする。

①しゃらく旅倶楽部事業（目標売上　1,500 万円）
しゃらく旅倶楽部では、利益率が高くニーズが一番高いオーダーメイド旅行に注力してきた。しかし、お客様が重度の方が多く、しゃらく旅倶楽部事業の利用年数及びリピーター率の低下がみられるため、軽度の方への「この指とまれツアー」中度の方のための「パック旅行」と、商品ラインナップを増やすことにより、対応してきた。

2014 年度事業計画　　NPO 法人しゃらく事業方針



しかし、「この指とまれツアー」に関しては 50 人程度の会員数と参加者が増え一定の成功と言えるが、「パック旅行」に関しては申込数が以前少なく、「パック旅行」の催行につながっていないのが現状である。利益率が高くしゃらく旅倶楽部のミッションと一番合致する「オーダーメイド旅行」を持続的に運営するためには、「パック旅行」参加者が身体能力の低下と共に参加できず「オーダーメイド旅行」に流れる仕組みが必要であり、「パック旅行」参加者は「この指止まれツアー」の参加者を想定している。

よって、全ての旅行商品は「この指とまれツアー」が入口になっているため、平成 26 年度は、

1．「この指とまれツアー」を重点的に広報する。

2．未開拓地域である神戸市西区（西神中央～学園都市の間）を重点的に広報

することにより、50 人の会員から平成 26 年度は 150 人の会員増、売上目標を、4,980 円 / 人 ×7 人 / 回 ×5 回 / 月 ×12 か月＝2,091,600 円とする。

3 年先の平成 28 年度には、「この指とまれツアー」会員を 500 人程度まで伸ばし、「パック旅行」への参加を促すことにより売上を飛躍的に伸ばすようにする。

■売上目標

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
この指	200 万（150 人）	400 万（350 人）	500 万（500 人）
パック旅行	50 万	200 万	500 万
オーダーメイド	1,250 万	1,400 万	1,500 万

②社会学校事業

前年度の古民家再生事業に関しては、売上が 900 万であった。平成 26 年度から「社会学校」というブランド名にて、古民家再生ツアー及び新規事業として福島ツアーを実施することとし、社会学校のみの売上目標として 1,000 万円を目標とする。

また、社会学校は「メディアの目で見る社会」から「自分の目でみる社会」を合言葉に新たなブランドを構築する。

事業計画　しゃらく旅倶楽部

ビジョン

新規顧客の獲得・業務改善による収益構造の強化

この指とまれツアー

前年度と引き続き、神戸市在住の 65 歳以上高齢者を対象に新規顧客獲得を目指す。今年度の数値目標は会員数 150 人、年間の売上金額 200 万円とする。その手段として以下の営業・宣伝活動を行っていく。

① 現会員への個別営業活動
② チラシのポスティング
③ 主に神戸市内の高齢者賃貸住宅・有料老人ホームへの営業活動

全ての旅行商品の入り口となる「この指とまれツアー」の新規顧客獲得は収益安定化の成否の鍵となる。まずは現参加メンバーへの友人勧誘の働きかけを強化するとともに、高齢者が多くニーズの高い西区西神中央～学園都市間に集中的にチラシのポスティングを行ない口コミによる波及効果を狙う。その他昨今増加している高齢者賃貸住宅等に対する営業活動も引き続き行う。

パックツアー

前々年度、前年度と続けて少人数のパックツアーの販売を行ってきたが、未だ 1 度の催行もない状況である。いわゆる介護付きパック旅行は全国的にもほとんど催行されていないのが現状であるが、その主な要因としては、対象となる要支援～要介護 2 の高齢者のほとんどが、「介護が必要のない状態」から「見守りや介護が必要な状態」に変化してからあまり時間の経っていない方々であるため、金額的なものも含めた心理的抵抗が大きく働いていると考えられる。そのハードルを取り除くためにも、まずは「この指とまれツアー」への参加をステップに、要介護度の進度とともにパックツアーへと移行していく流れを作ることが必要である。

基本的には「この指とまれツアー」と同様の営業・宣伝活動を行うが、中でも現会員への個別営業活動に力を注ぐ。今年度の目標は催行最低 3 回、売上金額は 50 万円とする。

事業計画　しゃらく旅倶楽部

オーダーメイド旅行（手配旅行含む）

立ち上げ当初主力だったオーダーメイド旅行の受注件数がここ 2 年頭打ち状態である一方、より低額な手配旅行の受注件数が大幅に伸びている。今後もこの傾向が続けば収益の伸びの鈍化は避けられない。

そこでオーダーメイド旅行、手配旅行それぞれの業務から見積もり方法まで見直し、より収益が上がる形への改善を行う。

また、前年度の事業計画に掲げた「緩和期高齢者旅行の強化」については、緩和ケアの医療関係者に対してアンケート調査の依頼等を行ったのみで具体的な営業活動もほとんどできずに終わった。今年度はそれぞれのスタッフが「患者等搬送事業乗務員講習」を受講する等して救急搬送に対応できる体制を作ると同時に、病院の地域連携室や訪問看護事業所等への営業活動も行う。

今年度のオーダーメイド旅行（手配旅行含む）の売り上げ目標は 1,250 万円とする。

東日本大震災被災地バスツアー

ボランティア「作業」が減少し、特別な技術や財力を持たない一般ボランティアの関われる領域が失われつつある中、ツアーを催行し続けることによって、主に西日本の志願者が現地を目にする機会を保障し、当事者意識を持って復興のあり方とそれに至る道筋を見出すべく努める人材を一人でも増やすことが、旅行業者である私たちが事業を通じて目指すところの到達点である。

2014 年度は、古民家再生バスツアーと SHINGAN Project ツアーという既存の企画に、福島県へのツアーを新規に加え、「社会学校」というテーマの下に再編する。社会に現存する課題を実地に知り、学ぶという目的を、旅行というアクティビティを通じて達成するものである。

古民家と SHINGAN の宮城県行きツアーは、参加者という名の顧客が当初期待する「作業への従事」が、最早それだけでは課題を解決する方策として時機を失っていること、また、「私たち遠隔地の人間が復興支援に関われる形」を問い続け、その答えを行動に反映させることの大切さを体感してもらうために、行程中のみならず、その前後における参加者への効果的な働きかけがますます重要度を増す。現地に寄り添い続ける参加者の存在を可視的に発信するため、これまでは決して成功しているとは言い難いリピーターの増加にも注力しなくてはならない。

対して福島県では、原子力災害という目に見えない脅威の中、被災者の心情やボランティアの受け入れに対する感覚には、宮城県とは大きく異なった様相がうかがえる。他地域の人間に現状を知ってほしいという願いは現地にも確実にあるが、その具体的な実現方法には多様な考え方が存在する。復興を見据えるという企画の性質上、現地目線でその必要性が明確に実感されない限りツアーの存在理由は見出せない。双方の利益が一致するポイントを探り当て次第、それを形にする作業に着手していきたい。

事業計画　「まさゆめ」Project

ビジョン

まさゆめ Peoject は、難病や医療的ケアが必要な子ども達が、夢や希望実現のためにスタートラインに立てないのが現状である。公平平等な社会実現のため、まさゆめ Project では、難病や医療的ケアが必要な子ども達が強く願う夢や希望を、企業や市民からの支援を頂きながら形にするチャレンジの舞台を構築する。なお、本年は持続可能な体制を構築するためにも、安定的な収入確保を大きな方針とし、ファンドレイジング機能を強化していくこととする。

夢実現支援事業

難病や医療的ケアが必要な子ども達、2 才～ 18 才までの子どもに対して、夢実現の支援を行う。
1 グループ 3 人 ×2 グループ＝合計 6 人

クリスマスキャンペーン事業

2013 年度において、兵庫県立子ども病院様、チャイルド・ケモ・ハウス様の子ども達に、クリスマスプレゼントを届けたのと同様に、本年は、その他病院様も加えた上で実施することとする。

ファンドレイジング事業

①街頭募金事業
主に、関西学院大学・甲南大学・神戸松陰大学・兵庫県立大学等の学生ボランティア（まさゆめ family）と共に街頭募金を実施する。
2 回 / 月 ×12 か月＝24 回

②企業開拓及び切手等の販売事業
平成 25 年度に実施した「もったいない Project」において、約 50 万円程度の切手を保有している。その切手を、ご支援頂ける企業に販売し同時に企業開拓を行う。

③まさゆめ応援団の勧誘事業
毎月定額寄付の人数を増やすことを目的に、積極的な啓発活動を行う。

④もったいない Project2014
本年度は、コープこうべ様に協力を要請した上で、最低 6,000 部、最大 40 万部のもったいない封筒を配架し、6,000 部の場合、最高 300,000 円、40 万万部の場合は、5,000,000 円を目標に資金を集めることとする。

難病の子ども、サマーキャンプ事業

兵庫県立子ども病院のドクターからの依頼により、小児ガンの子どもを対象としたサマーキャンプ事業を実施する。ただし､助成金（はぁ～とふるファンド事業）の取得を前提とする。

事業計画　インキュベート

ビジョン

神戸市におけるソーシャルビジネスのエコシステムづくり

中間支援事業

生きがいしごとサポートセンター神戸西事業、NPO 法人設立・運営相談窓口事業を 2013 年度に引き続き運営する。今年度は、両事業ともに協働に重点を置く。さまざまな団体と協働し、事業を一緒に行うことで、私たちのリソースを最大限生かすようにする。また、生きサポ神戸西は、職業紹介事業、高齢者向け事業に力を入れること、相談窓口事業は人材育成に力を入れ、より広範囲で高度な対応をできることを目指す。

協働コーディネーター事業

2013 年度から引き続き、NPO 以外のネットワークを広げることを進める。また、今年度より二人体制での実施となるため、情報交換を円滑に行い、より効果的な支援体制を構築する。それらで得たノウハウやネットワークを神戸市協働と参画のプラットホームに還元し、従来型の NPO と新しいソーシャル系活動の協働が進むようにする。

IT・DTP 事業

DTP 事業は新規案件を受注せず、社内のクリエイティブ制作に特化する。IT 事業も基本的には社内の Web サイトを改善することに注力するが、人員の強化によりほかの NPO 等からの依頼を受ける体制となったため、要望があれば新規案件も受けることとする。

ふるさと兵庫“すごいすと”（兵庫で活躍するすごい人）情報発信事業

2013 年度に引き続き、兵庫県県民生活課（兵庫県起業支援型地域雇用創造事業）の委託を受け、「ふるさと兵庫“すごいすと”」の Web サイト制作・運営を行う。「兵庫を元気にしている身近なすごい人」に取材を行い、活動の魅力や生き様とともに地域そのものも紹介するコンテンツを制作する。

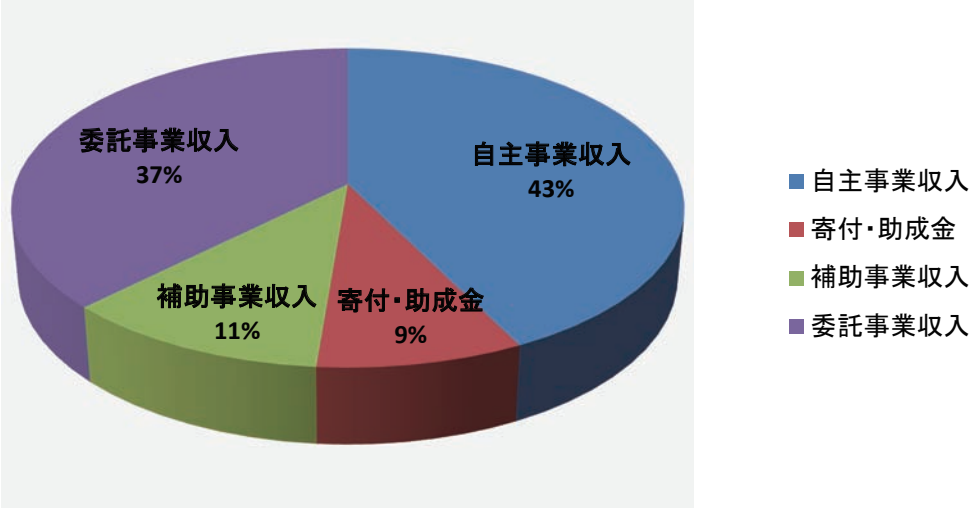
今年度は継続事業として、前年度と同内容の更新に加え、①（各人について）ギャラリーページ（関係者との写真や周辺の名所など写真 7 枚と 40 字の短文）、②すごいすとマップ（すごいすとの活動拠点を Google Map 上にマッピング）、③Facebook ページ運用や紙媒体での広報、などを開始し、さらなるアクセス数の増加を目指す。実施体制としては、専属従事者 3 名を新規に雇用。前年度、県から指摘を受けた事業の遂行体制についても見直しを行い、管理スタッフとして 4 名の既存スタッフが関わっている。

2014 年度予算　活動予算書

（単位：円）

科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1．受取会費			
正会員受取会費	75,000		
賛助会員受取会費	9,000	**84,000**	
2．受取寄付金			
受取寄付金	4,000,000	**4,000,000**	
3．受取助成金等			
受取助成金	4,200,000		
受取補助金	6,750,000	**10,950,000**	
4．事業収益			
自主事業収益	25,600,000		
受託事業収益	22,501,000	**48,101,000**	
5．その他収益			
受取利息	5,000	**5,000**	
経常収益計			**63,140,000**
Ⅱ 経常費用			
1．事業費			
(1)人件費			
給料手当	27,500,000		
法定福利費	3,800,000		
通勤費	650,000		
人件費計	**31,950,000**		
(2)その他経費			
印刷経費	4,000,000		
旅費交通費	6,000,000		
通信費	2,500,000		
謝金	420,000		
新聞図書費	60,000		
機器備品費	300,230		
その他経費	200,000		
宿泊費	3,000,000		
交際費	20,000		
支払手数料	200,000		
水道光熱費	200,000		
雑費	50,000		
リース料	300,000		
保険料	450,000		
会場使用料	65,000		
消耗品	1,500,000		
食事代	700,000		
租税公課	300,000		
委託費	500,000		
広告宣伝費	500,000		
地代家賃	94,500		
支払利息	50,000		
研修費	50,000		
車両費	200,000		
諸会費	120,000		
賃借料	1,500,000		
会議費	10,000		
その他経費計	**23,289,730**		
事業費計		**55,239,730**	
2．管理費			
(1)人件費			
給料手当	1,200,000		
法定福利費	270,000		
福利厚生費	250,000		
人件費計	**1,720,000**		
(2)その他経費			
採用教育費	50,000		
通信運搬費	300,000		
水道光熱費	50,000		
旅費交通費	400,000		
交際費	150,000		
会議費	150,000		
消耗品費	300,000		
修繕費	40,000		
地代家賃	450,000		
保険料	600,000		
租税公課	400,000		
諸会費	100,000		
リース料	170,000		
支払手数料	600,000		
減価償却費	1,500,000		
その他経費計	**5,260,000**		
管理費計		**6,980,000**	
当期経常増減額			**920,270**
当期正味財産増減額			**920,270**
前期繰越正味財産額			**13,060,595**
次期繰越正味財産額			**13,980,865**

2014 年度予算　事業別予算

	しゃらく旅倶楽部	社会学校事業	まさゆめ	ＩＴ/DTP	委託・補助事業	合計
収入						
自主事業収入	15,000,000	10,000,000		600,000		25,600,000
寄付・助成金		3,200,000	2,000,000			5,200,000
補助事業収入					6,750,000	6,750,000
委託事業収入					22,501,000	22,501,000
合計	15,000,000	13,200,000	2,000,000	600,000	29,251,000	60,051,000

平成 26 年度事業別収入内訳